

単位数	2	学科（型） 学年	建設工学科（土木型） 3年	教科書 副教材等	社会基盤工学（実教出版）		
学習目標		社会基盤がどのように整備されてきたか、安全で暮らしやすいまちづくりのために今後どう整備・維持していくかを学習する。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 暮らしと社会基盤 1 社会基盤の整備と土木事業 2 暮らしを支えてきた土木技術 3 国土計画と社会基盤の整備 第2章 交通・運輸 1 交通・運輸のあらまし 2 道路 3 鉄道 4 港湾 5 空港			○土木事業の重要性とその役割について理解できている。 ○社会基盤の整備がどのように行われ、それによって人々の生活がどのように変化してきたかといった判断ができる。 ○通需要を予測し、需要に応じてどのような輸送機関を整備していったらよいかといった基本的な知識を身に付ける。 ○交通機関がどのように発展してきたかに対して関心を持つ。			
	2	6 都市交通施設 7 交通・運輸の環境対策 第3章 治水・利水・水環境 1 水と人とのかわり 2 利水 3 治水 4 生活用水と排水 5 水環境の保全と回復			○輸送機関の特性を理解し、環境問題などを考えた総合的な交通計画を立てることができる。 ○堰、ダム、遊水池などの構造物についての知識を身に付ける。 ○生活用水や工業用水、雨水の利用を含めた水の循環をどのようにしていくかといった判断ができ、整理・要約することができる。		
		3	第4章 暮らしとまちづくり 1 都市と都市計画 2 都市の再生 3 エネルギーの整備 4 災害と防災 5 循環型社会の形成			○都市計画法をはじめとする関係法令、整備の現状や今後の課題、都市整備の重要性とその役割について理解できる。 ○過去の災害と被害状況がどうであったか、今後どのような災害が想定されるかといったことに関心を持つ。	
			評価の観点		内 容		
			知識・技能		・社会基盤はわれわれの生活や産業にとって必要不可欠であることを自覚し、これらの整備・維持を適切に行う知識を身に付けている。環境や景観に配慮しながら、適切な社会基盤の整備・維持を計画し、安全で経済的な方法で進める知識を身に付けている。		
思考・判断・表現			・安全で暮らしやすいまちづくりのために、社会基盤をどのように整備・維持していくかを総合的に考え判断し、まとめることができる。				
主体的に学習に取り組む態度			・土木技術の発展にともなう社会基盤の整備や維持について関心を持ち、意欲的にそれらを探究する態度を身に付けている。				
評価方法	・学習意欲、学習態度、学習に取り組む姿勢を評価する。 ・年間5回の定期考査の結果をもとに学習内容の理解度、定着度を評価する。 ・ノートの記入状況等について評価する。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 基本的な内容が中心となるので、授業中に理解するよう努力すること。 ○ ノートは、後から勉強しやすいように、丁寧にとること。							